

森林再生の提言

地球環境問題と森林

日時：平成20年11月22日（土） 13:00～15:00

講師：滑志田 隆（林政審議会特別委員）

概況



森林保全や温暖化問題についてジャーナリストおよび林政審議会特別委員の観点からご講義いただきました。

●世界人口と森林の状況

20世紀は人口爆発の世紀でした。世界の人口は1900年では16.5億人ですが、2008年7月現在では67億人を超え、約100年間で4倍に増加しました(国連推計)。それに伴い、私たちの経済活動を支えるために必要となるエネルギー消費量も増大し、化石燃料の使用や森林破壊を加速させることになりました。世界の森林面積は38億7000万ha(2000年)と積算され、南極をのぞいた陸地面積の3割を占めます。20世紀末の10年間では、毎年900万haの減少が報告されました。人工林は増加しているものの、熱帯地域の天然林が大きく減少しています。

●日本の森林の状況と国民の期待

日本の森林面積は、昭和27年の約2475万haから平成14年の約2512万haへと、やや増加しました。これを蓄積量の推移で見ると、昭和27年の約17億m³から平成14年の約40億m³へと2倍以上も増加しました。数字の上では日本の森林は順調に成熟してきています。しかし実際には、利用する時期に入った森林資源を有効に活用することができず、民有林の森林経営への意欲は減退し、荒廃した人工林が各地に出現しています。

日本の森林の機能に関する国民の期待の変遷を知る世論調査結果があります。平

成 19 年では第 1 位が温暖化防止機能となっており、地球温暖化に対する国民の関心が高いことがわかります。一方で、昭和 55 年には第 2 位であった木材生産機能は、平成 14 年には第 8 位となっています。国民の意識は林業から遠ざかっていると推測されます。

●地球環境・森林保全対策の表と裏

地球サミット以降、日本は国際的な多くの取り決めに参加し、地球環境問題への貢献を打ち出してきましたが、目標は達成されず、サンゴ礁の劣化や二酸化炭素濃度の増加がみられます。国内では都市の産業育成に力を入れる一方で中山間地域が放置されてきました。林業は衰退し、森林の守り手がいなくなっています。

森林保全は地域住民と直接的に関わる問題です。国際的な枠組を検討するに当たっては、独立国の主権や資源管理、国民のアイデンティティーにも関わります。世界森林保全条約がいまだに結ばれないのは、このような事情が反映しているためです。日本の森林の状況を直視しながら、地球規模の視点から、森林保全の意義を考えることが大切です。